

25号 熱田高同窓会報

発行
愛知県立熱田高等学校
同窓会事務局
TEL(052)-652-5858

同窓会ホームページ
URL:<http://www.atsuta.gr.jp/>

熱田高校ホームページ
URL:<http://www.atsuta-h.aichi-c.ed.jp/>

目次

巻頭文 ----- 1

人工芝を起爆剤にして
副会長 柿崎賢一 17 回生

創立 70 周年の記念すべき年に 2
第 19 代校長 熊谷誠人
定時制課程の今
教頭 加藤 大真

がんばれ熱校生 ----- 3

今も息づく井泉水と伊玖磨
11 回生 橋本松代(旧姓 林)
終活適齢期 理解と諒解の世界
11 回生 羽塚 孝和
変わらないもの
23 回生 加藤恵七子(旧姓 天野)
三遊亭圓丈さんを偲んで
11 回生 谷澤 伸

人工芝化事業の報告 ----- 6

寄附金の中間報告
生徒の声
3 年(68 回生) 高間 巧聖
3 年(68 回生) 日名田 楓

ホームカミングデーの 開催について -- 6

熱田高校の今 ----- 7

挿し絵 「六月」(パステル画)
11 回生 田中和枝(旧姓 竹内)

事務局だより ----- 8

創立 70 周年記念式典並びに
総会に向けて

会員名簿に関して
著書の寄贈について
あとがき

同窓会のQR



人工芝化された運動場と施設の全体像

人工芝を起爆剤にして

副会長 柿崎賢一(17回生)

母校の人工芝工事もやっと完了したと聞きました。奇跡的な出来事があり素晴らしいグラウンドに生まれ変わる事ができました。同窓会・学校職員・父兄・生徒の皆様そして、デザイン・資金・日程をとりまとめ完成まで導いた実行委員の皆さん、同窓会の一員としてお礼を申し上げます。と思います。

私は在学中も運動部ではなく、入学前も在学中も卒業後も熱田高校がサッカーに力がいっていることを知らなかった人です。最近になってサッカー部の縦方向の先輩・後輩の繋がりがうらやましく感じるようになりました。私も入部すれば良かったと思います。私も入部すれば良かった。しかし多額の費用を集め人工芝を造るのにどのような意味があるのか、私なりに考えてみました。その費用

を使えば母校の発展のためにもっと何かできることはあるのではとか？なかなかこれだと言うアイデアは浮かびませんでした。そうこう考えている内にこれは結構、後輩を動かす起爆剤になるかもしれないと、考えるようになりました。次はこの種を生かし、サッカー部はどんどん強くなり、熱田高校の広告塔になって欲しいものです。より沢山の優秀な生徒を迎え、他の運動部はもとより、勉学のレベルアップを目指して、そして母校の発展の原動力になってもらいたいものです。もちろん在学生の応援や盛り上がりも期待したいと思います。

私は同窓会の名簿管理とHPを担当しています。HPの閲覧数は徐々に増え15万人に近づきました。今回の人工芝のページを、皆さんの原稿をもとに動きのあるページに成長させたいと思っています。

創立 70 周年の記念すべき年に

第 19 代校長 熊谷 誠人



皆様こんにちは。校長の熊谷です。昨年度に引き続きましてどうぞよろしくお願いたします。

この 4 月 6 日には、正門の桜が咲き匂うなか、全日制課程第 70 回生 321 名、定時制課程第 58 回生 29 名が入学しました。

その直前の 3 月 26 日、創立 70 周年記念事業実行委員会の皆様が来校され、佐々木元彦実行委員長様より人工芝建設にかかわる目録を頂戴いたしました。そして同窓会寄贈による、運動場を人工芝にするという一大事業が竣工いたしました。

「雨が上がればグラウンドが使用できる」というのは本校にとつての宿願でした。5 月 27 日は体育祭の日でした。この日は朝まで大雨が降りましたが、天気予報の通りに雨があがり、その 90 分後はグラウンドで



人工芝での学校祭(体育祭)

の体育祭を始めることができました。まさに人工芝の力が存分に発揮された日でした。このすばらしい環境を整えていただきましたことを深く感謝申し上げます。

11 月 1 日(火)には本校体育館で創立 70 周年記念式典を挙げる予定です。全校生徒の式典参加を考慮しておりますが、このコロナ禍の中の屋内施設であるために、同窓会の全ての皆様をお招きすることができません。事情をお汲みいただき、ご理解を賜りますと幸いです。

現在、教育は大きな変革期にあります。本校では昨年度から第 2 棟校舎の改修で、今年の 11 月には完了する予定です。ICT 教育では、令和 3 年度当初から生徒全員に 1 台ずつのタブレットが配備されています。ソフト面では、熱田高校の新しいスクール・ポリシーをホームページに公開しています。さらにこの 4 月から新しい学習指導要領に則ったカリキュラムが実施されています。

「熱田高校のよき伝統を受け継いで発展させ、それを未来へつなげていく」それが校長の使命だと心得ています。皆様には、引き続き温かいご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます

定時制課程の今

教頭 加藤 大真



熱田高校定時制の教頭に着任して、2 年目となりました。昨年度は、長寿命化工事による学習環境の向上、人工芝完成による運動環境の整備などがあり、恵まれた状況で勤務できることに身の引き締まる思いです。

令和 3 年度のご報告をします。令和 3 年 4 月に新入生 27 名を迎えました。令和 3 年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、授業や部活動などが制限される日々が続きました。特に 2 学期が始まった頃には、愛知県でも感染者が大幅に増加したことなどもあり、この時期に行う予定だった生徒会行事を 1 月に延期したり、文化鑑賞会を中止したりする必要がありました。しかし、ここ数年で培ってきた新型コロナウイルス感染症拡大対策を施し、時間制限や人数制限はありましたが、「球技大会」「体育祭」「修学旅行」については、行うことができました。

3 年生の修学旅行は新型コロナウイルス感染症拡大のため、当初予定していた沖縄から三重県に場所を

変更して実施しました。2 泊 3 日で伊勢神宮・志摩スペイン村、鳥羽水族館やミキモト真珠島などに貸し切りバスで行くことになりましたが、生徒たちは、体験を楽しんだり、観光を満喫したりしてとても楽しく過ごしていました。

全国の定時制・通信制高校生の大会イベントである「生徒生活体験発表大会」では、学校代表として、4 年生の大島華恋さんが『今までの私の夢と将来』という題で発表しました。表彰には至りませんでしたが、自分が過去に乗り越えてきたことや学校の活動などを通じて学んだことを、家族への感謝を踏まえながら素朴な思いを伝えることができたすばらしい発表でした。

昨今の定時制においては、外国にルーツを持つ生徒が増えています。このため、通訳を務めていただく方々を増やすなど新しい時代の新しい教育ニーズに対応する動きを進めています。昨年度実施したアンケートでも「熱田高校定時制に入学して良かったと思うか」という質問に対して、8 割近い生徒が肯定的な回答でした。

同窓会の皆さまには今後とも熱田高等学校定時制へのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

がんばれ熱高生

コロナウイルス禍、コロナウイルスと闘っている現場の様子を少しでも知ってもらう目的で、小中学校の先生・看護師さんを中心に原稿を依頼しました。しかし、思うように看護師さんの原稿が集まりませんでした。

原稿に快諾していただいた3人を紹介します。長年教育にかかわってこられた橋本松代氏(11回生)・浄信寺住職 羽塚孝和氏(11回生)・小学校教諭の加藤恵七子氏(23回生)です。また8回生の落語家の三遊亭圓丈氏が令和3年11月他界されました。圓丈氏を偲んで同窓会会報担当が彼の功績をまとめました。

であり、一筋の光のようであった。

今も息づく井泉水と伊玖磨 11回生 橋本松代(旧姓 林)

言葉との出会い

1年生の4月。
1文5行もある英文にびっくり。知らない単語と複雑な文の構造。これからこんな難題に



取り組むのかと自信喪失に陥った。悪戦苦闘の末、そこには「長文で単語の意味がつかめなくても、前後のつながりで推測していけば、筆舌に絶する表現に出会うであろう」ということが書かれていたのだ。私にとってその文は悩み相談の回答のよう

「guess」(推測する)と、「beyond description」(言い尽くせない)という言葉に触れたことで、学ぶということとは、想像力と創造力を駆り立て発見と感動を生むものだと思ふ流の解釈に満足した。

魔法にかけられて

2年生の夏。コンクールに向けた特練のために招聘した先生は魔法使いだった。ピアノ伴奏の私に「はい、ピアノさん」と、ソフトな声と美しい指先で合図をされた。すると、今までの無造作で粗野な音列とは違い、滑らかで快い音楽が生まれたのだ。それに続く混声合唱の歌声とハーモニイも同様だった。

魔法には必ず種がある。それは、指揮者が演奏者に与える「やる気・そ

の気・いい気持ち」という3つの「気」であったように思う。深い専門性と人の心を動かすコミュニケーション能力に圧倒された。

後に私は義務教育と大学教育に48年間かかわった。こどもや学生に学ぶ意欲と確かな学力を培うため研鑽を積み続けてこられたことは、この種が心に宿ったからであると思う。

緑を育てる

2年の冬だったか、修学旅行で訪れた広島見学後の車中のこと。4人のボックス席でどうしたにか私の前には2人の先生が座っておられた。「何度見ても悲惨なものです。原爆は一瞬にして全てを奪ってしまふ。実に恐ろしいものですね」と嘆息混じりにA先生。「同感です。しかしこれを見ると、日本中で爆撃の脅威に戦って逃げ惑い亡くなった人が大勢いたことを忘れてしまいがち。これも恐ろしいことです」とB先生。その会話に私は入ることができず、ただ車窓から山々の緑を眺め、緑を育てることを漠然と思った。

熱田高校の玄関の蘇鉄、学校を取り囲むトベラの生垣は60年という年月を経て今も生き生きとしている。3つのエピソードは「救世主となる光」「研鑽を積んでできる績」「世の中の安寧のもととなる緑」であり、光なり・績なり・緑なり」で始まる

熱田学校の校歌に通ずる。

私はこの校歌が大好きだった。格調高い萩原 井泉水の5音になる詩と、團伊玖磨の今までは違う鮮烈な印象をうける形式の曲を、3年間で何回歌ったことだろう。その度に言葉の意味をかみしめ、メロディーに心酔した。

教員生活の終盤から、豊かに歳を重ねていきたいと「こジャレた老後に：プロジェクト」を立ち上げた。自宅を会場とし、趣味の域を超えた方を講師とし、いろんなジャンルの講座を計画して55回を重ねた。また1年に1回は場所を変え、名フィルのメンバーによる演奏とランチも開催した。ふとしたきっかけで新しい講座が企画できたり、会の運営も試行錯誤で改善が生まれたりする。これらは光であったり、績であり出会った人との交流は緑ではないかと思っている。



阿修羅像を描く

コロナ禍の活動休止中に「徳蔵菩薩」と「阿修羅像」を描いた。安寧を願いつつ。

終活適齢期 理解と諒解の世界

11 回生 羽塚 孝和



11 回生の生まれ
れた昭和 22 年前
後の平均寿命は
50 ～ 60 年。知ら
ぬ間に後期高齢者
になってしまった。

6 年前卒業以来 50 年をぶりに同
期会があった。旧友に会い懐かしさ
と嬉しい思いと同時にこれが最期の
別れになるのではと、住職という職
業柄そんな事も脳裏を過った。終活
適齢期になったのかもしれない。

現代人の大多数は、誕生そして命
終える時も病院でその生死を見届
けるのが普通になっている。それは身
次に人間の誕生・臨終に出遭えない
ことを意味する。命というものが、
五感で感じられない時代になってい
る。

医師に、医学的知見に基づいて死
亡を告げられれば一応理解できる。

理解できるからと言って、それで
終わりとはならない。合理的に説明
できないが、漠然とした感情で、「亡
くなった人の魂がどこかにいるよう
な気がする」。そうした思いを現代人
が持っているのも事実なのである。

作家の片山恭一氏は、こうした人
の死・魂・靈魂の問題について、哲

学者の内山節氏の「理解」と「諒解
(りょうかい)」という 2 つの言葉を
引用して説明されている。

内山氏によれば、理解とは論理的
合理的にわかることで、近代哲学で
いうところの「認識」に近い。

これに対して「諒解」とは、筋道
だった説明はできないが、なんと
く納得できる、受け入れることがで
きる事と述べている。

片山氏は、人の死は、内山氏の【理
解】できる事柄ではあるが、なにか
未消化・未解決なものが残る【諒解】
できない世界をいつている。それが
各種のアンケート等で来世観を尋ね
られると、「あの世はある」と答える
人の方が、多いという結果が出たり
する要因である、と述べている。

片山氏は、こうした死の【諒解】
が起こるためには、「歴史や文化や伝
統」といった文脈のなかではじめて、
死についての【諒解】がなされるの
であって、現代社会は、こうした文
脈が喪失しているという。

人の死に関しては、理解だけでは
不十分で論理や道理を超えた【諒解】
できる世界がないと、自分の死も、
他人の死も受け入れることができな
い、と述べている。

片山氏は、近代以前の日本では、
柳田国男の説く、祖霊信仰・鎮守の
森に象徴される村落共同体としての、

人々の交流や人間と自然との頻繁な
関わりが【諒解】の文脈を下支えし
てきたという。

その事をそのまま現代にフィード
バックする事は不可能である。現代
人は「生は偶然、死は必然」という
言葉すらタンスの奥に仕舞い込んで
おり、死を隠蔽して理解して生きて
いるのではないのだろうか？

自らの一生を通じて自身の「死」
を諒解していく生きざま、別の言葉
でいえば、現代の死生観を持つ事が、
真の終活ではないのだろうか。

それを力不足ではあるが、ご縁あ
る人々に伝える事もまた、住職の責
務と考える昨今である。

〈参考文献〉

片山恭一『死をみつめ、生をひらく』
(NHK出版新書)

変わらないもの

23 回生 加藤恵七子(旧姓 天野)

48 年、23 回生が初めて熱田高校の
門をくぐった日から経った年月であ
る。もうすぐ半世紀という長さ。時
の流れを感じざるをえない。

今年 4 月から勤め先が、母校の近
くになった。毎朝、校舎と熱高生の
姿を見ながら通勤している。昔と変
わらないな懐かしい思いで、眺め
ていたが、よく見るとグラウンドは芝

生が敷かれ緑に輝いている。女子の
制服が黒いリボンから青いスカート
に変わっている。月日は、様々なこ
とを変化させていた。

私は在学中、合唱部に所属してい
た。部員数は少なかったが、学年の
垣根がなくアットホームな雰囲気
心地よかった。その時の顧問であり
学級担任としてもお世話になったの
が堀崎嘉明先生である。今秋、先生
と一緒に演奏会の舞台に立つ。長い
時を経ても、先生の美しい低音の響
きを近くで聞くことができる幸せを
感じる。

2019 年秋、私たち 23 回生は初
めての同期会を開いた。還暦を迎え
る年にあたり「60 歳みんな越えれ
ば怖くない」とばかりに 60 歳を祝う
会に集まることができた。恩師の先
生方もたくさんおいでくださった。

「60 歳なんてまだ若輩者だ」と教え
てくださる先生方のお元気な姿に、
いくつになっても先生は先生で教え
ていただくことばかりである。

名古屋から遠く離れた所から駆け
付けた同窓生も大勢いた。卒業以来
の再会という場面があらこちらで
見られ、会場には懐かしさがあふれ
ていた。長い時が経っていても、一
言声を交わせば、一瞬に高校生頃の
の友達と自分に戻っていく。まるで
魔法にかけられたような素敵な時間

あった。マスクがなく。大勢で飲食できたことが今では夢のようである。

時が経ても変わらないもの。それは人と人との互いの思い、思い出ではないだろうか。今はあまり耳にすることがない「青春時代」をともに過ごした思い出や友情は長い時を経ても変わらないこと。

そして、恩師の先生方が気に掛けて、見守ってくださっていること。私たちが先生方のご健勝を願っていること。互いに思い合う心も変わらないことである。ことを同期会が教えてくれた。

自分の周りにこんな素晴らしいものがあつたことに改めて気付いた。心の宝物として大切にしていきたいと強く思う。

時は、この瞬間にも流れ、未来へ続いていく。今、自分が出会っているものは時が経ても変わらないものになるだろうか。高校生の頃の瑞々しい感性や夢中になれる機会は少なくなってきたかもしれないが、様々な経験を積んできたことで大切なものを見つけられる力は付いてきたと思う。

高校生だった頃の自分に堂々と伝えられるような大切なものを見つけていきたい。出会いたいと思う。

(小学校 教諭)

三遊亭圓丈さんを偲んで

会報担当 谷澤伸(11回生)



三遊亭圓丈(へんじょう)さんが

昨年(令和3年11月30日)心不全で他界された。享年76歳であった。

圓丈(円丈)さんは熱田高校出身の著名人の1人で、昭和38年卒の8回生。本名は大角弘(おおすみひろし)という。

高校時代から落語家を目ざし、明治大学文学部演劇科に入学した。

しかし翌昭和39年(1964)大中学中退を決断し、20歳で6代目圓生に入門した。一番弟子の兄弟子に5代目圓楽(現「笑点」で活躍しているのは6代目圓楽)がいた。圓丈さんは7番弟子で、顔かたち雰囲気「ヌーッ」としているところから師匠の命名で、ぬう生と名のつた。

昭和53年(1978)34歳で真打に昇進し、三遊亭圓丈(円丈)を襲名した。彼は古典落語にとどまることなく、「実験落語」と称し、奇想天外な世界観の新作落語を創作し、落語そのものの形を変え、若手新作落語家に大きな影響を与えた。

圓丈チルドレンの1人で現「笑点」の司会者、若き日の春風亭昇太(しよ

うた)は「若手新作派は皆圓丈病にかかっている」といった。

圓丈自作の新作落語は300本を超え、その数の多さ・質の高さで日本一と自他ともに認める。代表的作品「悲しみは埼玉に向けて」は東京の北千住駅を発車する下り電車できり広げられるさまざまな人間模様を描き、「گریコ少年」では終戦後の子ども時代に食べたگریコキャラメルの思い出や、消え去っていく商品などを熱く語る。時代の変化やそこに生きるさまざまな人間をおかしくも、切なく描く。そこには人生ひとコマひとコマが見え隠れする。

著書には1986年出版され、16万部のベストセラーとなった『御乱心 落語協会分裂と、円生とその弟子たち』がある。「御乱心」の起こりは昭和53年、落語協会が打ち出した新たな真打昇進制度に、師匠圓生が引き起こした落語協会の分裂騒動である。圓丈は分裂騒動下、師匠とその弟子達の生きざまをノンフィクションとして描いた。

師匠と命運を共にするか、それとも協会に残るのか。弟子達の性格・主義主張。信頼・尊敬の念・裏切りなどを赤裸々に描き切った。人を見る目、人の行動をよく観察していたことがわかる。

翌1979年圓生が急死すると、

圓丈や弟子たちは落語協会に復帰した。しかし5代目圓楽は、その後圓楽一門会を形成し、協会の分裂を決定づけた。

師匠の死後、圓丈は古典落語以外に、師匠が嫌っていた新作落語を演じることが多くなった。80年代以降はもっぱら新作派として知られ、新作落語のカリマスとなっていた。

筆者と圓丈さんとは、個人的な繋がりがあつたわけではありません。筆者が母校の教師の時、40周年記念講演に、先輩の圓丈さんを母校に招く計画を立てた1人にすぎません。

圓丈さんはワツペンを定紋代わりに着物に貼って体育館で、その新作落語や愛するドラゴンズ、生まれ育った雁道(がんみち・瑞穂区)の話をされた。



40周年 記念講演をおこなう

今から30年前のでき事だが筆者には、圓丈さんの姿がなつかしい想い出として残っている。

人工芝化事業の報告

運動場の人工芝の実現を目指し、令和元年度、学校・PTA・同窓会の3者で構成する準備実行委員会が発足。趣旨は、教育環境の整備によるさらなる熱高生の向学心の高揚にある。芝化事業は巨額な費用負担を求められますが、3者の協力がえられれば実現不可能ではないと確信を持ち、コロナ禍にもかかわらず創立70周年事業のひとつとして『覚悟と決意』を持って実行しました。多くの同窓生のご協力・ご尽力が得られ、実現をさせることが出来ました。

生徒の声

モチベーションを高める人工芝

3年 高間 巧聖(サッカー部)

人工芝になって良かった。部活動の姿勢・態度・モチベーションの向上へと繋がったことです。練習前のグラウンド整備がなくなり、体幹・ストレッチの時間が充分に取れるようになりパフォーマンスが良くなりました。また、プレーの質が高くなりました。また、グラウンド状況が良く雨の中でも練習ができ、1日の練習を大切にすることがさらに増えひとりひとりの意識が高くなったと思います。

寄附金の中間報告(令和4年5月20日現在)

寄附金に係る収入

- 応募寄附額 ・ 特定寄附総計額 44,292,150 (884件)
- ・ 一般寄附総計額 7,381,114 (475件)

人工芝に係る支出

- ▲人工芝事業・倉庫費 43,216,125(芝事業・芝保管費)
補充事業内容(防犯カメラ・防球ネット設置費他)
- ▲通信連絡・事務費 6,100,000(全会員への送付費等)
人材育成基金内容(国際交流基金・部活動助成基金)
(詳細はHP参照)

雨が降っても可能になった体育祭

3年 日名田 楓(68回生)

人工芝になって良かったと思うことは、前日から当日の朝まで雨が降っていましたが、体育祭を行うことができたことです。去年までは前日に雨が降ってしまうと延期になっていました。そうなるとうと、気持ちが大変になりました。しかし、それが無くなったことで、当日に気持ちを上げて臨むことが出来たと思います。



人工芝化なった運動場から体育館を眺める

第3回ホームカミングデー開催について

昨年8月に開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、延期をさせていただいておりました。しかし感染減少の傾向となり、左記日程で、第3回ホームカミングデーを企画しました。20〜35回生を対象にお誘いしますが、参加希望の方はお出かけください。

趣旨

熱田高校は戦災を受けた愛知時計の跡地に建設されたものです。戦争を風化させないためにも、話

し合いの場をもつ機会の必要を感じ同窓会の1つの企画として始まりました。

日時と場所

令和4年8月7日(日曜日)

会場 熱田高校 体育館 他

当日の内容

9時40分から 受付・体育館

10時開式

10時10分〜11時30分

講演と吹奏楽部演奏披露

校歌斉唱 校舎内外の見学会

講演会の講師紹介

20回生 浅井 武

筑波大学体育系教授・工学博士

筑波大サッカー部総監督

(部活IIサッカー部 全国大会出場)

29回生 小塚 聡美

市民オーケストラ活動

熱田高吹奏楽部指導者

(部活II吹奏楽部 東海大会出場)

第2回ホームカミングデー開催の様子を紹介



進行アナウンサー (生徒会長)



体育館での講演

アルバム・戦争資料を見る(校長室)

校歌 斉唱

トロンボーン奏者 向井滋春

向井滋春(むかい しげはる)氏は 12 回生で著名なジャズ・トロンボーン奏者です。本校入学とともに吹奏楽部でトロンボーンを始めたのが、奏者となるきっかけとなった。同志社大学入学後ビッグバンドやコンボで活躍し、1976 年(昭和 51)28 歳でプロデビューをはし「For My Little Bird」発表。その後各国の著名なジャズ・ミュージシャンと共演している。洗足学園音楽大学で、ジャズ科発足以来客員教授を務め、2012 年(平成 24)からは講師も兼任している。



向井滋春氏と吹奏楽部との共演



六月 (パステル画)



梅雨時 ひときわ存在感のある花、あじさい。描き上げるのに時間がかかるので少しひるむものの、この美しさには逆らえない。

11 回生 田中和枝(旧姓 竹内)
(画家・絵画教室講師)



67 回生卒業証書授与式
(令和 4 年 3 月 1 日 举行)

熱田高校の今



桜花満開の正門
入学式当日の様子
(令和 4 年 4 月 5 日)



初の芝上での体育祭
(令和 4 年 5 月 27 日)

事務局たより

創立70周年記念式典並びに総会に向けて
日時 令和4年11月6日(日)
会場 名古屋 東急ホテル
会費 1万円



65周年記念式典で祝辞を述べる
第17代校長 北角尚治

会員名簿の発刊について

創立周年の5年毎に、同窓会会員名簿を発刊してまいりました。しかし令和4年度第1回役員会では、今回の発刊はみあわせることになりました。その理由は、ご承知のように個人情報取り扱い・発刊経費の多額化・名簿の購入者数の減少・名簿への広告掲載数の減少・30回生以降

の不掲載希望数の増加などのためです。なお、75周年時の発刊再考の余力は残しておくこととします。

なお、個人情報管理は、従来通り(株)廣済堂ネクストと契約し、同期会開催等で必要なタッグ類は同窓会事務局を通せば従来通り機能します。



2017年版 会員名簿

著書の寄附のお願い

本校は創立70周年・卒業生数2万7千人を要します。後輩達に著書を紹介する「卒業生図書コーナー」を図書室の一角に開設したいと思っております。

令和5年度の開設を目指し、著書の寄附をお願いいたたくご案内します。図書コーナー開設のための協力著書の送付先は左記へお願いいたします。

熱田高校内同窓会学校幹事まで

同期会の開催に関して

同期会を計画される場合の通信費・宛名シールの費用は同窓会より援助しております。利用してください。連絡先 熱田高校学校幹事・役員まで

あとがき

令和4年(2022)創立70周年記念(会報25号「発行」)が、どんな年であったのか、まとめてみた。

▼2020年1月コロナウイルスが日本に上陸してから、変異をくり返すウイルスとの闘いは2年半近くになる。この間世界のウイルス感染者による死者は630万人になっている。日本での感染者は860万人、死者は3万人を越えた。ウイルス感染予防に大きな役割を果たしたのが、カタリン・カリコ博士が開発したメッセンジャーRNAワクチン(遺伝子ワクチン)である。彼女はハンガリー出身で、日の目を見なかったRNA(DNAの遺伝情報を転写したメッセンジャー)研究に心血を注ぎ、その研究は30年以上にわたった。彼女の技術があつたからこそ、驚異的なスピードでmRNAワクチンが開発されたのである。iPS細胞の作製者山中伸弥(しんや)教授も、当初から彼女の功績はノーベル賞ものだと語っていた。我々はワクチンを手に入れ、さらに制限付き使用だが新薬も生まれた。これらにより現在感染者は減少傾向にある。▼コロナ禍で世界が疲弊しているなか、ロシアのプーチン大統領が突如隣国ウクライナに軍事侵攻した。大国ロシアの復活をはかるプーチンにとって、N

ATO(西側の軍事同盟)加盟をはかるゼレンスキー大統領は厄介な存在であった。主権国家ウクライナを軍事力をもって押さえつけるプーチンに対して、国際社会は厳しく断罪した。ロシアへの経済制裁やウクライナへの軍事支援は、侵攻から3カ月たった今も終わることがない。プーチンは情報操作やプロパガンダの本質を知りつくしてはいるが、テレビの映像はウソをあばく。焦土と化したウクライナの街々、横たわる死骸。こんな非人道的なことが、21世紀に入って行われたのだ。▼私はシヨパンの怒りに満ちた言葉が浮かんた。七月革命で世界が揺れる、ロシア支配下のポーランドで、自由を求める民衆が立ちあがった。祖国の惨禍を知ったシヨパンは言う「この瞬間どんなに多くの人々が死骸となつたことか。街は焼き払われた。神よ、あなたはロシア人の犯罪を余すことなくご覧になったのではないのですか。それともあなた自身がロシア人なのですか。」プーチンがおこした戦争は後世どのように記されるのだろうか。(文責 会報担当 谷澤伸)

訃報

大倉美美子 2回生 令和3・12・10
深谷圭一郎 2回生 令和4・3・17
杉山久唱 11回生 令和4・4・5